

# Road to ジョッキーベイビーズ

ジョッキーベイビーズ出場を目指して全国各地で激しい予選が繰り広げられました。その模様をレポートします。

8月21日(日)

東北・新潟地区

## JRA福島競馬場「東北・新潟地区代表決定戦」

本年は7名がエントリー。まず予選でもある技術審査を行い、選抜された4名がダート直線250mの代表決定戦へ進出しました。決定戦はパークウインズ発売終了後の夕暮れの時間帯に行われましたが、多くのお客様が競馬場にいらしていただき若武者達の戦いに熱い視線を送っていました。レースは鐘(あぶみ)が外れるというアクシデントを物ともせず、松浦太志くん(中学1年生)が先行馬を差しきってゴール。多くの方の祝福のなか最後の決勝大会への切符を手に入れました。



7月31日(日)

北海道地区

## JRA日高育成牧場「北海道地区代表決定戦」

馬産地浦河の同予選は毎年激戦かつハイレベルな戦いが繰り広げられます。本年は7人馬がエントリーしました。ダート直線200mの予選2レースの上位2名(計4名)で、直線300mの代表決定戦を行いました。激戦の中で優勝したのは、予選3日目出場の今年がラストチャンスとなる広瀬仁乃くん(中学1年生)。予選1組目で差し脚が届かず僅差の2着だったものの、決定戦では予選で後塵を拝した人馬を見事に差し切って、念願の代表の座を射止めました。



8月10日(水)

関東地区

## JRA競馬学校「関東地区代表決定戦」

東京都世田谷区のJRA馬事公苑が来秋の再オープンに向け整備工事のため、本年も千葉県競馬学校で開催されました。なお本年は同地区から2名の代表を選出しています。予選の技術審査により、エントリー14名から5名によるダート直線350mの代表決定戦が行われました。人馬とも実力伯仲の決定戦は好スタートを決めた田中健人くん(小学4年生)が逃げ切り勝ち。僅差だった2つ目の椅子を獲得したのは徳山友希くん(小学6年生)となりました。



7月17日(日)

東海地区

## JRA中京競馬場「東海地区代表決定戦」

今年のジョッキーベイビーズの熱い戦いの幕を開けたのは東海地区予選からとなりました。同予選には5人馬がエントリーで代表決定戦の1レースのみとなり、初夏の照りつける太陽のもと、ダート直線300mで行われました。快速ポニー、サクラ号の力を信じ冷静なスタートを切った池添陽くん(中学1年生)が残り200mで先頭を捉え、その後は他馬を大差で引き離し危なげないレース運びでガッツポーズを決めてのゴール。見事全国大会への最初の切符を手に入れました。



8月21日(日)

関西地区

## 三木ホースランドパーク「みっきいポニーレース」

ジョッキーベイビーズの甲子園こと夢の大舞台でもある東京競馬場芝コースを目指し、本年は8人馬がエントリー。予選2レースを行い上位2名(計4名)による決勝レースで代表を決定しました。距離は300mでスタート後にカーブのあるテクニカルなコースが同予選の特徴です。決定戦では3年前(2019年)の全国大会優勝馬のツクモビジン号とのデッドヒートを制したダニエル号騎乗の浜田成風くん(小学5年生)が晴れ舞台でもある全国大会出場を果たしました。



8月11日(祝・木)

九州地区

## JRA宮崎育成牧場「九州地区代表決定戦」

「山の日」に行われた同地区には6人馬がエントリー。予選は3頭ずつに分かれ、上位2頭の計4頭がダート直線300mの代表決定戦に進出します。しかし予選2組目で1位入線馬が、決定戦でも同じく1位入線馬がフライングで失格となる波乱の展開に。同地区代表に輝いたのは予選1組目で2着だった下平新くん(小学4年生)。決勝では予選上位馬を負かし2位入線となりましたが、1位入線馬のフライング失格により繰り上がり優勝で決勝大会への権利を手に入れました。



7月24日(日)

沖縄地区

## 中城公園「沖縄地区代表選考会」

季節外れの台風によって当初の7月3日(日)から順延となってしまいました。南国沖縄でも「こんなに暑い日は珍しい」と言われる酷暑のなか、北中城村の中城(なかぐすく)公園で沖縄県内の3団体の乗馬クラブから5人馬がエントリーし代表選考会は行われました。同予選はレース方式ではなく、部班審査と走行審査(直線走行)により選ばれたのは、まだ乗馬歴2年という宗像聖さん(小学6年生)。バランスの良い騎乗で決勝でも台風の目になってくれることを期待します。



※東北・新潟地区および関東地区の技術審査は主に「部班(集団で整列して騎乗し号令により動きを変える運動)」および「ジムカーナ(指定経路を走行するタイムレース)」が行われました。  
※各予選では貸与馬方式(予選主催者がポニーを用意する)[東北・新潟と関東の2地区]と自馬参加方式(ポニーも参加者が用意する)[貸与馬方式以外の5地区]とに分かれています。  
※各予選の様子はジョッキーベイビーズ公式ホームページにて視聴することができます。

### スタートの方法 (カウントダウン方式)



★口取り(引き手)はJRA職員が行います。  
★危険防止のためムチは持ちません。

※ポニーはゲートの練習をしていません。制止させ一斉に引き手を放すやり方は、馬がよれる可能性が高まり危険なため、上記スタート方法を採用しています。

### 過去の ジョッキーベイビーズ優勝者

過去の優勝者	★第6回(2014年) 角田大和くん(関西)
★第1回(2009年) 木村拓己くん(北海道)	★第7回(2015年) 大池峻馬くん(北海道)
★第2回(2010年) 渡邊亮介くん(関東)	★第8回(2016年) 上薄龍旺くん(九州)
★第3回(2011年) 石井李佳さん(関東)	★第9回(2017年) 加藤雄真くん(東北・新潟)
★第4回(2012年) 小林勝太くん(長野)	★第10回(2018年) 木村暁琉くん(長野)
★第5回(2013年) 斎藤 新くん(関東)	★第11回(2019年) 佐野遥久くん(長野)

※昨年において「第12回ジョッキーベイビーズ」大会を行いました。3地区の予選終了時点で新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全国大会を含め2021年の大会は中止とさせていただきます。よって本年も「第12回」として開催することとしております。

注目の決勝レースは、いよいよ10月9日(日)、  
東京競馬場で行われます。お楽しみに!!

※天候その他の理由により、イベントを中止または変更する場合がございます。予めご了承ください。

★ジョッキーベイビーズ公式ホームページ  
ジョッキーベイビーズ 検索

